

V 現 職 教 育

1. 研究主題・副主題

学び合って のびゆく子の育成 —全員の深い学びを生み出す授業をめざして—

2. 主題設定の理由

今年度も研究主題を「学び合って のびゆく子の育成」とした。わたしたちは、一人一人の児童が友達の考えを認め、新たな発見をし、自分の考えの不足に気づき、お互いが関わり合いながらよりよい考えを見つけて「学び合う」姿を日々求めている。さらに「のびゆく子」とは、「自分で課題を見つけられる子」「進んで課題に取り組む子」「生活経験や既習の内容を生かす子」「粘り強く学習に取り組む子」ととらえてきた。

本校の児童は、活動的でエネルギーにあふれている。一方で興味のあることには意欲的に取り組むが、粘り強く取り組む姿勢が十分とはいえない。友達と協力したり、相手の立場を考えてよりよい行動をしたりすることが苦手だという面もある。

昨年度は、児童の意欲が授業の最後まで持続しない、交流場面において発言する児童が固定化してしまう、「書く」ことに対して苦手意識をもつ児童が多いという実態に向き合うため「課題意識を持続させる工夫」を重点にして研究を進めた。その結果、全員参加を意識した働きかけを行うことで、授業を受ける全ての児童が当事者意識をもって課題に向かうことができる、再思考の場を設定することで、児童が授業の最後まで課題に対して考え続けることができるということがわかってきた。しかし、表現の場が十分に確保できず児童の言葉をつないで課題を解決することができない、再思考のための発問は準備していたが、そこに至るまでの働きかけが弱く再思考が機能しない場合があるといった課題も見えてきた。

そこで、今年度は副主題を「全員の深い学びを生み出す授業をめざして」とし、授業を受ける全ての児童が、課題に対して主体的に関わり、互いに考えを出し合いながら、「深い学び」にたどりつくために、教師はどのような働きかけ（発問）を行っていくとよいのかに重点を置き、研究を進めていきたい。

3. 主題のとらえ

「学び合う」

友だちの考えを
認める

新たな発見を
する

自分の不足に
気づく

よりよい考えを
見つける

「のびゆく子」

自分で課題を
見つけられる子

進んで課題に
取り組む子

生活経験や既習の
内容を生かす子

粘り強く学習に
取り組む子

4. 本校のめざす「深い学び」について

学習を通して「わからないことが、わかるようになること」「できなかったことが、できるようになること」「ぼんやりしていたところが、はっきりすること」「気づかなかったことに、気づくこと」といった思考の変容、「学んだことを生かして考えてみよう」「次はこんなことも考えてみたい」といった意欲の高まりを深い学びの姿ととらえる。

今年度は、算数科を中心に授業研究を進める。深い学びを支える上で欠かせない、算数科ならではの「数学的な見方・考え方」を働かせた数学的活動の充実についても研究を深めていく。

5. 研究の重点

全員の深い学びを生む授業にするために、次のような重点を設定する。

重点：全員の深い学びを生むための発問

- 導入の発問（興味・関心を引き出す、問題点に気づかせる、学習課題を明確にする）
- 主発問（本時のねらいにせまる）
 - ・補助発問（発言の不足を補う、考えを共有させる、気づきを与える、表現を生み出す）
- 深めの発問（活用を促す、学びを確かにする）

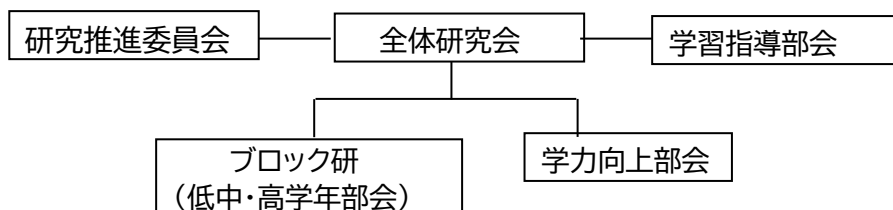
6. めざす児童像

低中高学年のそれぞれの発達段階から、めざす児童像として設定する。この児童像に迫るために重点を意識した授業展開を構成し指導していく。

低学年	友だちの意見をよく聞き、自分の考えをはっきりと表現する子
中学年	自分と比べながら聞き、自分の考えをわかりやすく表現する子
高学年	共通点や相違点を考えながら聞き、よりよい考えを見つけようと話し合う子

7. 研究の進め方

(1)研究組織



・研究推進委員会

研究の方向・内容・進め方・研究構想図などの原案を作り、全体研究会および低・高部会に提起していく。

・全体研究会

研究の方向・内容・進め方や研究授業について協議し、学校研究についての共通理解を図る。

・低中・高部会

授業を中心に実践研究を図る。

・学力向上部会

学力向上を含め、共通実践など校内の学習指導全般について協議し、提案する。

各種調査（全国学力調査・県学力調査など）を分析し、対応を検討する。

(2)研究方法

- ①主題・副題を受けて、全体研究会で「めざす児童像」を確認する。
- ②算数科を中心に研究を進める。
- ③全員１回以上、研究授業を行い、その際に指導主事等の要請を行う。
- ④低中・高学年各１回（全体で２回　５月・１０月）の全体研究授業を設定し、共通理解を深めながら研究を進める。全体研以外は、部会研とする。
- ⑤重点を意識した授業の基本スタイルを作成し研究の方向性について共通理解を図る。
- ⑥先進校視察の報告や講師を招聘した学習会を行う。

(3)研究授業計画

	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月
低学年	船登 (提案授業)		竹林	辰巳 中島			
高学年		川崎	林	稲葉	角谷	飯利	

8. 研究推進年間計画

4	・今年度の校内研究出発にあたって 研究主題・副題、研究の基本方針、研究組織、研究構想図等についての共通理解 ・児童の実態把握 ・低・高部会：各部会のめざす児童像の設定、研究授業計画 ・学習規律の確立 ・家庭学習の手引き ・学びのアイテム（算数）の作成開始 ・指導案の形式について検討 ・研究の重点の設定 重点の具体化に向けた取り組み ・重点を意識した授業の基本スタイルの作成
5	・提案授業（全体研）
6	・学習アンケートの実施
7	・１学期のふり返し
8	・全体研究会
9	・研究の方向確認
10	・全体研究授業
11	・学習アンケートの実施
12	・２学期のふり返し
1	・本年度の研究のまとめと研究集録の作成
2	・本年度のふり返し 来年度の方向づけ 学習アンケートの実施